

《修道院のシンフォニー(ニ長調)》(1808年)¹ 水谷 彰良

修道院のシンフォニー(ニ長調) *Sinfonia del Conventello*

作曲 1808年 [推測]、ラヴェンナ [推測]

初演 不明

編成 管弦楽 (2フルート、2オーボエ、2クラリネット、1ファゴット、2ホルン、2トランペット、弦楽5部)

演奏時間 約4分

自筆楽譜 未発見または消失。唯一の筆写譜がラヴェンナの G.ヴェルディ私立音楽学校に所蔵 (Ravenna, Istituto Musicale Pareggiato “G.Verdi”, Biblioteca [Fond dell' Accademia Filarmonica])。

初版楽譜 下記全集版

現行版 下記全集版

全集版 VI / 1 (Paolo Fabbri 校訂, Fondazione Rossini, Pesaro, 1998.)

構成 ニ長調 [開始部はニ短調]、3/4拍子、ラルゴ〜2/2拍子、アレグロ

解説

自筆楽譜の存在が確認されず、アマチュアのコントラバス奏者でロッシーニと親しいアゴスティーノ・トリオッシ (Agostino Triossi, 1781-1822) の所有していた筆写譜を唯一の典拠とするシンフォニー。ラヴェンナの図書館 (上記) 所蔵の筆写譜のタイトル頁に「修道院で書かれたシンフォニー」(Sinfonia / Scritta al Conventello per il Sig.r Agostino Triossi / Del Sig.r Maestro Gioachino Rossini [sic]) とあり、Gossett-2001²は題名を《*Sinfonia "al Conventello"*》、作曲年を「1806年頃」としていた。けれども全集版は題名に《*Sinfonia del Conventello*》を採用し、校訂者パオロ・ファブブリ (Paolo Fabbri) は断定を避けながらも、周辺状況から1808年にラヴェンナで作曲と推測している³。

曲はパセティックな序奏部 (ニ長調 [ニ短調]、3/4拍子、ラルゴ) と軽快な主部 (ニ長調、2/2拍子、アレグロ) からなり、主部の第一主題は後に《ブルスキーノ氏》(1813年) 序曲に再使用される。第二主題はチェロ独奏に導かれ、第一主題を再現して終結部に至る。

推薦ディスク：

- ・Riccardo Chailly 指揮ボローニャ歌劇場管弦楽団 (1991年録音 Decca 436 832)
- ・Alun Francis 指揮ボルツァーノ・ハイドン管弦楽団 (1992/93年録音 Cpo 999 063-2)



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシーニ全作品事典(25) ロッシーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。
² *The New Grove Dictionary of Music & Musicians*, 2-ed., Macmillan, 2001. 所収のフィリップ・ゴセット (Philip Gossett) によるロッシーニ作品目録
³ 全集版序文 pp.XXII-XXIV.